

ちくほう

筑豊総局

0948 (22) 3500
 FAX 0948 (22) 3503
 〒820-0004 飯塚市新立岩12-9
 chikuho@nishinippon-np.jp
 直方支局 0949 (26) 1361 FAX (26) 2969
 〒822-0001 直方市感田1478-6
 コテージ向日葵A号室
 田川支局 0947 (42) 2205 FAX (45) 2207
 〒825-0011 田川市栄町2-2

◆購読、配達のご用は◆

飯塚市徳前 22-1757	飯塚市潤野 25-7604
勝盛 23-5143	飯塚西 25-3235
22-2768	飯塚東 22-0294
23-0707	天道 22-1437
29-3191	22-0294
25-3466	22-1437
24-9935	22-0294
25-2473	42-4045
25-5900	32-2170
	52-0513
	57-0112

桂川町 62-4114	小竹町 伊田
直方市北 22-0294	田川市伊田
直方市南 22-0294	伊藤
直方市東 22-1437	後藤
直方市西 22-1437	任
直方市植木 22-0294	大福
直方市植木 42-4045	智町 金方
宮若市宮田 32-2170	赤
宮若市若宮 52-0513	糸田

フリーダイヤル 0120-44-



福祉用具活用の現状と課題について意見を交わすパネリスト

「NPO福祉用具ネット」10周年記念シンポ 地域独自のシステムを

県立大で150人参加 現場の課題論議

県立大(田川市)を拠点に活動する「NPO福祉用具ネット」(理事長・豊田謙二熊本学園大学学院教授)の創立10周年記念シンポジウムが7日、県立大で開かれ、参加者約150人が福祉現場の課題について考え

「福祉用具活用の現状と課題」の実践報告では、高齢者施設の施設長や理

た。この団体は県立大福祉用具研究会を前身に、2002年11月にNPO法人格を取得。高齢者や障害者向けに、床ずれ防止用具やベッドで使えるシヤワーなど福祉器具の開発、支援を続けるほか、器具購入の相談などにも応じている。

シンポでは、九州栄養福祉大リハビリテーション学部 橋元隆教授が「事例から学ぶ自立(律)支援」と題して講演。「リハビリの最終目的は機能回復ではなく、主体的に社会参加できるようにすること」と述べ、「そのためには『地域包括ケア』の概念が大切。医療という縦糸と生活支援という横糸をどう編んでいくか、その地域独自のシステム作りが大切になる」と説明した。

学療法士ら4人が登壇。職を育成する段階で、福祉器具を使う重要性を教調整が難しい。専門職の「えてほしい」などと問題サポートが必要」(介護 提起した。(糸山信)